

一 般 質 問

一般質問項目一覧

第1回定例会では、5人の議員から一般質問が行われ、2日間にわたり熱い議論が展開されました。

登壇順に、質問と答弁を要約して一部掲載します。

- 高橋正信議員 11 ページ
 - 1 汚水処理対策について
 - 2 結婚対策支援について
 - 3 教育環境整備について

- 岡田晴雄議員 12 ページ
 - 1 平成 23 年度施政方針について

- 埴 仁議員 13 ページ
 - 1 平成 23 年度予算と事業について
 - 2 玉造中学校講堂改築工事及び麻生中学校新築工事の入札並びに麻生小学校仮校舎について

- 小林 久議員 14 ページ
 - 1 財政状況の推移について
 - 2 工事契約前払い金について
 - 3 子宮頸がんワクチン接種について
 - 4 学校等適正配置について

- 樽見清衛議員 15 ページ
 - 1 天王崎周辺開発構想について
 - 2 河川改修等について
 - 3 土地改良区内の整備について
 - 4 都市計画事業について

※ 一般質問とは：議員が市の一般事務に対して、その執行の状況又は将来の方針、政策的提言や行政への批判等を執行者に直接質すことです。また、執行者の所見や施策について報告を求めたり問い質すこともあります。行方市議会の場合、質問時間は答弁を含め一人 90 分となっています。

我が市政を問う

市設置型浄化槽の整備を早急に

市長―北浦地区及び麻生・玉造地区の下水道未整備箇所に
推進していくことを検討中



高橋正信 議員

高橋 北浦地区の汚水処理事業について、これまでも「市設置型浄化槽の整備を早急に」と質問してきた。北浦地区生活排水事業検討協議会を6回ほど開催しているのとどこだが、その検討経過はどうか。

建設部長 この検討協議会は、北浦地区の生活排水等の処理に関する調査・研究・検討を図ることを目的に、平成21年7月1日に発足した。協議、研修を重ねた結果、北浦地区は人口密集地も少なく、また既存の合併浄化槽もあることから、北浦地区全域を市設置型浄化槽事業で計画的に整備を進める内容の意見書を、平成23年2月1日に行方市長へ提出した。

高橋 今後の事業スケジュールはどうなっているのか。

建設部長 新年度当初に、事業実施に向けた事業計画策定のコンサル業務委託や、地区説明会、広報紙等のPRを実施する。さらに、事業の推進体制を円滑にするため「事業推進協議会」を設立し、事業計画の策定や地域住民の説明会等を実施する予定である。なお、工事は平成24年度早々に着手できるスケジュールである。

高橋 汚水処理事業に対する問題点にどう取り組もうとしているのか。

市長 北浦地区は、整備が遅れている状況にある。今回、検討協議会から建設的な意見書の提出があったので、来年度以降、市設置型浄化槽整備事業を積極的に整備促進していきたいと思っている。

さらなる結婚支援対策を

市長―より多くの「出会いの場」を提供する

高橋 現状を踏まえて、さらなる支援策は考えられないのか。

市長 茨城県の調査によると、結婚していない理由として、独身男女の約6割が「適当な相手にめぐり合わない」と答えて

おり、いかに「出会いの場」を設けることが必要であるかを強く感じている。したがって、独身男女のコミュニケーション手段として共通の趣味や話題に着目し、より多くの出会いの場を提供できる企画の実施を優先すべ

きと考えている。平成23年度は、農業振興センターがバックアップしている「畑で婚カツ」等を3回、また、企画課も予算を約2.5倍増額し、婚活セミナーや婚活イベントなどを4回開催する計画である。



平成22年度「畑で婚カツ」では19組のカップルが誕生

これも
質
問

高橋 教育環境整備について、場所を提供して、その中でアドバイスをする形の「教育ボランティア」の実現は可能ではないか。

教育長 場所の確保は勿論、英・国・数の専門教員等の人材確保が重要となる。やはり通学する学校の教科担任にアドバイスを受けることが一番よいと思う。

新規起債が償還額を上回った要因は

市長—平成27年度までの合併特例期間により多くの市民の要望にこたえるためである



岡田晴雄 議員

岡田 予算編成の基本的な考えの中に、「子供たち、お年寄りが安心して生きる喜びを分かちあえる市」の実現」とあるが、子供たちやお年寄りにどのような政策を予算化したのか。

前原 子供に関連する予算では、放課後児童クラブ、また、平成23年度から、医療福祉費支給制度の小児対象者として、新たに小学校4年生から6年生までを市単独予算で拡充するほか、女子中学生への子宮頸がんワクチン、小児用肺炎球菌、インフルエンザ菌b型各ワクチンの接種の公費負担を実施する。

お年寄りに関する予算では、インフルエンザ予防接種の公費負担率水準



放課後児童クラブは子供の安全と安心を含めた子育て支援の一つです

を維持するほか、高齢者の健康づくりとして、麻生公民館と同様に、北浦・玉造の各公民館にもカラオケ機器を設置する。また、単位老人クラブの県補助との差額を市単独で補助をする。

岡田 市債について、当該年度の元金償還見込み額を新規起債が上回らないようにしていたはずであるが、平成23年度は大きく超えた。超えた理由と今後の計画はどうか。

前原 平成27年度までの合併特例期間に、学校、通学路、生活道路など、より多くの市民の要望にこたえていくためには、財政状況とのバランスをとりながらも、起債額が償還額を上回ることが予想される。

今後は、平成23年度からの5年間に、学校等及び通学路に37億円、道路に8億円、一般財源となる臨財債に25億円、学校解体等その他に23億円、合計93億円を起債した場

合、平成27年度末の起債の残高は190億円、基金の残高は27億円、実質公債費比率は13%台、将来負担比率は150%台になる見込みである。

岡田 民生費の伸び率が大きい。これからの見通しと、今後の予算編成の考え方はどうなのか。

前原 子ども手当及び国民健康保険特別会計への繰出金、また生活保護費などの増額分が民生費予算を増大した要因である。本市では少子高齢化が深刻な課題であり、今後ますます民生費予算が増加するのは必至である。

民生費全般における施策は、市の単独事業以上に国策による施策が多いため、今後の予算編成では、義務負担の財源の確保が今以上に必要になってくる。

岡田 百里基地の騒音地区に、区長たちで組織し

ている協議会がある。この協議会に対し、どのような認識を持っているか。また、協議会の意見や要望にどのように対処していくのか。

前原 この協議会は、騒音地域の区長及び有識者の方で組織されている団体であると認識している。協議会からの要望書や、協議会の方々との話し合いを踏まえ、平成23年度予算では、騒音区域(75W以上の第1種区域)に対して騒音対策交付金を一般財源で、期間を再編交付金が交付される平成28年度までと限定し、区運営交付金に上乘せして交付することとした。



行方市の将来に向けてどう進むのか

市長—市債の管理、基金の積み増しを行い、財政の健全化を進める

【副】 平成23年度における重要事業等を所信表明の中で掲げているが、どのように進めていくのか。

【副】 最重要事業について、総務部は、定住化促進事業である。定住支援センターの設置、定住者の住宅取得支援や市有地の造成・分譲事業などを行っていく。

保健福祉部は、将来の行方市を担う子供たちの健康や子育て環境の充実である。希望する女子中学生全員への子宮頸がんワクチン、また小児用肺炎球菌、インフルエンザ菌b型各ワクチン接種の全額公費負担を実施する。

建設部は、下水道未整備地区である北浦地区への市設置型浄化槽の整備

の推進である。また、定住化促進事業の一環として、市有地を宅地への造成を図っていく。

経済部は、第6次産業推進事業である。従来の生産流通システムに終始することなく、第1次産業従事者が加工・流通・販売まで一体的に取り組む第6次産業に取り組める環境を整備し、新しい経済活動の醸成と収益性の向上につなげていく。

教育委員会は、学校等適正配置計画に基づく、麻生東小学校、玉造地区統合小学校、麻生中学校などの施設整備の推進である。統廃合に伴い、耐震強度の維持された施設が整備され、安心・安全な教育環境が整う。

【副】 現状がどのような方向に進展していくことを想定しているのか。

また、行方市の将来に向けて、どう考えているのか。

【副】 学校再編事業に伴う市債の発行や少子高齢化率の上昇による福祉予算の増加は必至である。また、人口が増加しない限り、市の活性化は図れない。市のさまざまな課題に取り組みためには、

市債の管理、基金の積み増しを行い、将来に備え、今後とも、行財政改革に取り組み、財政の健全化を進めていくことが、行方市の将来に何よりも必要であると思っている。

なぜ入札参加資格を変更した

教育次長—工事の煩雑さや地元業者の育成などを考慮したためである

【副】 玉造中学校講堂改築工事の入札等について、前回は質問したが、多くの疑問が残る。建築工事の再入札告示の予定価格が、最初の告示に比べ上がったのに、参加資格が茨城県内の1,000点以上の業者から鹿行管内の800点以上の業者に

なった。点数を下げたことで、安全が確保されないからと最低価格が設けられたが、1,000点のままで安全が確保されるならそれが一番いいと思う。なぜ点数を下げ、参加資格を鹿行管内としたのか。

【教育次長】 講堂改築を校舎建築と比較した場合、比較的煩雑さが少なくなるので、近隣自治体のRC構造の建物の入札参加資格要件を参考にしたこと、また、800点以上の総合



埴 仁 議員



市有地の宅地整備を進めます
(写真は市有地である旧麻生合同庁舎跡地)

評価を持つ企業であれば、1級建築士等の管理技術者を有するので、工事完成が担保されること、また、地元業者の参入が地元業者の育成になることを考慮したためである。また、予定価格は、工事内容等を市長に説明し、最終的に市長が決定される。

平成 23 年度以降の財政状況の推移は

市長—合併特例期間の最終年度は財政指数の上昇が予想される



小林 久 議員

小林 合併後から平成22年度まで、また平成23年度以降3年間ぐらいの財政状況はどのように推移していくのか。

市役 合併後、平成18年度の一般会計当初予算は171億6,400万円で、決算額は157億6,633万円であった。また、平成18年度は財政力指数が0・44、経常収支比率が93・2%、実質公債費比率が17・8%であったが、平成21年度は財政力指数が0・49、経常収支比率が88・5%、実質公債費比率が14・6%に改善した。平成22年度末の起債残高は179億円、基金残高は49億円になる見込みである。平成24年、25年度の予

子宮頸がんワクチンの実施時期は

保健福祉部長—6月から接種できるようにしていきたい

算規模を160億円程度とし、平成27年までの5年間で93億円の起債をした場合の平成27年度末の財政状況は、財政力指数が0・45程度、経常収支比率は90%強、実質公債費比率は13%台、将来負担比率は150%台、起債の残高は190億円、基金残高は27億円と見込んでいる。合併特例期間の最終年度は現在の財政状況と比べ、財政指数の上昇が予想される。

小林 子宮頸がんワクチンの実施時期は何月ごろになるのか。

保健福祉部長 平成22年度末までに地元医師会と協議をし、4月中旬ごろ中学校に説明し、4月下旬から5月中旬にかけて対象親子に対する説明会を開催して、6月から医療機関で接種が受けられるようにしていきたいと考える。



今後、学校の統廃合などによる市債の発行が予想されます

小林 接種にあたり、生徒や保護者の理解を得る対策はどうか。

教育長 教育委員会も保健福祉部と連携し、学校保健連絡会や各学校保健委員会における校内教職員の共通理解を図り、また保健の授業時間などを活用して、病気の内容、予防の必要性や副作用のリスクなどの正しい理解を得られる対応をしていく。

これも質問

小林 工事請負契約後、前払い金は、条件がどう整ったときに支出されるのか。

会計管理者 前払い金の支払いは、地方自治法第232条の5第2項の規定を受け、市の財務規則第155条及び同条の第2項の規定で支払うことができる。

小林 北浦地区統合小学校計画に対し、再度、地域の意見を聞く時期と場所の設定はいつになるのか。

教育長 平成23年度5月から6月、できるだけ早い時期に、北浦地区の各小学校で、PTA、地域の住民を対象に説明会、意見を聞く会を設定していきたいと考えている。

天王崎砂浜整備事業の進捗状況は

市長—砂浜整備は平成23年度中には完了すると思う



樽見清衛 議員

樽見 天王崎砂浜事業の進捗状況と整備方針はどうなっているか。

市長 砂浜を天王崎地区のメイン整備の一つと位置づけ、関連性の高い「風の塔」の改修、観光交流センターの建設やイベントなどのハード・ソフト事業計画を進めている。砂浜整備の養浜工事は、すでに突堤や離岸堤の工事が完了している。平成23年度中には完了すると思う。

運営方針を伺う。

総務部長 天王崎観光交流センターは、鉄骨2階建てで、屋上に展望スペースを設置し、屋内に行方産の農産物や加工品などのPRを図っていくスペース、屋外にポケットパークや温泉を使用した足湯なども設置する予定である。

この施設は利益を生み出す観光施設ではなく、観光交流の機会と地域の市民活動やイベント等の開催に供し、地域の活性化を図る公共施設である。管理運営は、「白帆の湯」との一体化が求められるが、その設置目的や交付金などから同一方法による管理運営はできない。維持管理費の軽減のため、指定管理者制度を導入することが望まれる。



砂浜整備が進められている天王崎

樽見 城下川改修事業の進捗状況と今後の予定はどうなっているか。

建設部長 これまでに取水堰設置工事などを実施してきたが、今年度は水門橋の架け替え工事に着手しており、来年度中には完成予定とのことである。来年度は箱樋池の整備計画に関する設計業務を実施し、平成24年度以降、箱樋池の環境整備工事とその下流水門橋の護岸工事の実施を予定している。

樽見 富田前川は川幅が狭く、曲がりくねっており、すぐに堆積物がたまり、川の流れに支障を来している。定期的に浚渫できないか。

建設部長 部分的に土砂等が入ってきているので、状況を見ながら浚渫を行いたいと考える。

富田前川の定期的な浚渫を
建設部長—状況を見ながら行いたい

これも質問

樽見 粗毛石神線の進捗状況と今後の整備方針はどうなっているのか。

市長 用地取得は全体の約70%が済んでいる。残りの未買収を今後随時進めたいと考えている。土地買収がスムーズに進む見通しが立てば、事業化として考えていく。

樽見 麻生地区の都市計画用途指定の見直しは考えているか。

市長 土地利用は、現状に合った用途地域の見直しが必要と考えているので、今後、慎重に検討をしていきたい。